

令和2年度指定管理運営業務評価表

施設名称：大阪府民の森ほりご園地	指定管理者：公益財団法人大阪YMCA	指定期間：平成30年4月1日～平成35(令和5)年3月31日	所管課：環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
------------------	--------------------	--------------------------------	-------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言	
		評価 S～C	評価 S～C				
I 提案の履行状況に関する項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	<p>①家庭教育、学校教育、社会教育、企業教育の一環として、持続可能な循環型社会の形成を推進</p> <p>②施設を取り巻くすべての環境を最大限活かし、かつての日本の生活文化を体験的に学ぶ場の提供</p> <p>③施設内の田畑における育成、収穫、調理などによる食育学習と地域の伝統や郷土文化を学ぶ場の提供</p> <p>④「府民の森園地管理必携」の充実・活用</p>	<p>① 利用者に先人から伝えられた生き方と知恵、無駄をなくす生活を伝承している。また展示棟の茅葺屋根の構造(萱、藁、葦)を説明することにより、冷暖房の節約や雨、湿気の防止、火事にならない建物を考えた生き方の知恵を共に学習している。そして食事作り、風呂沸かし、囲炉裏の暖房の為に薪や炭を燃やしそこから発生する二酸化炭素を野山の木々が吸収をして成長し、同時に発生する酸素を人間や動物が吸って生きるという循環型の生活も学ぶ機会を持っている。</p> <p>② これまでの運営と同様に現代生活とは異なる不便な生活を体験することにより気付きの機会を提供している。現在では、あまり手にしないマッチ、ナイフ、ナタ等危険なものが昔では身近な生活道具、必需品であったことを共に考えている。また生活に一番必要な水は雨水や河川の自然水を利用、そして田畑の米や野菜栽培で自給自足的な取り組みが日本文化を学ぶ場としての提供となっている。1円と1,000円のお金の価値を大切し、わいわい村では、1円の生活を心掛け「無駄、もったいない、節約、贅沢」を昔生活体験で振り返る場を提供している。</p> <p>③ 土壌改良や種、苗の植え付けから収穫までの季節作業の過程と農家の日々の働きを宿泊棟の利用説明や収穫体験時に畑の野菜の前で説明をしている。また「大阪府エコ農産物栽培」の認可を受け、安心安全な米作りを4回のシリーズで行っている。季節にもよるが、焚き火での焼き芋、餅つきや植え付け体験等も行い、田畑の学習の場となっている。今年度は、環境省の助成を受け、畑っ子キャンプ(農作業体験2回シリーズ10月・2021年1月)を実施。1回目は、土壌作り、畝づくり、植え付け(白菜、大根、ニンジン、キャベツ等)、稲刈り。2回目(2021年1月)は、1回目の野菜の収穫とそれを食材とし、また稲刈りのうるち米で昼食作りを計画している。</p> <p>④ 利用者の安全・安心の確保のため、職員は、常時施設の点検・充実に努め管理運営を適切に行っている。</p>	A	<p>① 環境教育の拠点施設として、持続可能な循環型の生活様式を実際に体験することにより、現代の便利で快適な生活を見直す貴重な機会を提供している。</p> <p>② 囲炉裏、へっついさん、五右衛門風呂といったかつての日本の生活様式を、不便、我慢といったイメージではなく、大人も子どもも楽しんで体験してもらうための工夫がされている。</p> <p>③ 収穫体験や素朴な遊びなど、現代の日常生活で体験できない自然に近い食文化や郷土文化の体験の場を提供している。</p> <p>④ 「府民の森管理必携」に基づき、適切に管理運営している。</p>	A	
	(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	<p>①誰でもいつでも利用できる施設として運営を実施</p> <p>②予約手続きにおける平等性の確保</p> <p>③高齢者、障がい者等への配慮</p>	<p>① 子どもから高齢者、障がいのある方も誰でもが気軽に利用できる施設として運営している。今年度より、日帰り利用のネット予約を充実させ、当日でも予約を受け付ける提案をし、現時点で67件の予約があった。宿泊利用については、利用直前の予約についても可能な限り宿泊を受け入れている。</p> <p>② 個人は6カ月前から、団体は1年前からの予約受付をしている。また継続をして利用していただいている団体について、まだ予約がない場合は、わいわい村から連絡を取っている。家族利用で2名という少人数であっても空き室があれば予約を取っている。</p> <p>③ 高齢者のハイカーが来られた場合は、昼食場所として展示棟の開放をしている。また、障がいのある方の利用では、介助者を含め利用料減免の適応案内をしている。自家用車は、駐車場までとしているが、高齢者や身体に障害のある方は、宿泊棟までの移動や荷物の運搬で自家用車の乗り入れを許可し、利用宿泊棟も一番手前の宿泊棟を案内している。</p>	A	<p>① イベント時は日帰り料金を取らずに開放しており、誰でも自由に楽しんでいただいている。また、利用直前の予約に柔軟に対応している。</p> <p>② 適正な手続きで平等性を確保しているとともに柔軟な対応がされている。</p> <p>③ 高齢の方や障がいをお持ちの方の場合は、宿泊棟までの車の乗り入れ等、柔軟に対応している。</p>	A	

<p>(3) 利用者の増加を図る具体的手法及び方策</p>	<p>①学校関係団体などを対象とした平日利用者の獲得 ②閑散期（12月～2月）のイベント実施による冬の顧客獲得 ③宿泊棟における年間稼働率の向上 ④インターネットサイトの活用、フェイスブックの充実によるリアルタイムな情報提供</p> <p>（利用者数の目標値 年間来園者数 27,000人以上）</p> <table border="1"> <tr> <td>■H29年度利用者数</td> <td>22,181人</td> </tr> <tr> <td>■H30年度利用者数</td> <td>19,142人</td> </tr> <tr> <td>■R01年度利用者数</td> <td>16,534人</td> </tr> </table>	■H29年度利用者数	22,181人	■H30年度利用者数	19,142人	■R01年度利用者数	16,534人	<p>①例年通り泉南市、阪南市、田尻町小学校全児童に8月のデイキャンプと利用案内のチラシを配布した。泉南市幼稚園については、遠足や親子遠足の利用をお願いしている。大阪市内の保育園を経営している大規模な社会福祉法人と六甲山YMCAの紹介により、<u>わいわい村の定員に収まる学校を含め団体に対してコロナウイルスの感染状況をみて来年度に向けて挨拶と営業に行く計画がある。</u></p> <p>②今年度は、コロナ禍の影響により、4月の春祭り、12月の里山まつりが実施できなかった。現在の予定として、12月の餅つき大会、2月のファミリーキャンプと<u>土日曜日を利用した2時間程度の日帰り体験プログラムを計画している。</u>また泉南市商工会の協力で2月に日帰りプログラム(商工会町ゼミ)を実施する。</p> <p>③今年度は、環境省の助成金を受け、10月にデイキャンプ4本(48名参加)を開催した。2021年1月にファミリーキャンプ2本(12家族47名申込み)を実施し、今後の利用に繋げている。コロナウイルスの影響はあるが、土曜日の宿泊稼働率は安定してきている。</p> <p>④インターネット予約では土曜日の予約の件数が多くなっているが、平日の高齢者等の予約があまりない。現在12月26日～31日の期間での10件のネット予約がある。コロナ禍の影響もあるが、今後増える可能性がある。フェイスブックは随時の掲載をしているが、リアルタイムの件数としてはまだ少ない状況である。</p>	<p>B</p>	<p>① <u>新たな利用者獲得に向けて、積極的に周知等を行っている。</u>平日の宿泊は難しいので、遠足や体験学習等での利用が増えるように、引き続き対応していただきたい。</p> <p>② <u>冬ならではの餅つき等、感染症対策を講じながら、プログラムを実施している。</u>また、新たな取り組みとして、<u>日帰りでの体験プログラムを計画する等により、利用促進を図っており、利用者増が期待できる。</u></p> <p>③ R01 21% (土日 50%) ⇒ R02 14% (土日 54%)</p> <p>④ ホームページをリニューアルし、より見やすく、リアルタイムで催事の広報等の情報提供を行っている。<u>じゃらんや楽天といった、ネットによる機能を活用し、幅広い層に予約がしやすい環境を提供している。</u></p>	<p>A</p>	<p>・当初の目標値が高く、目標を達成するのは難しいが、今後の努力に期待したい。</p> <p>(評価B⇒A) ・目標値を達成していないものの、相当する努力は認められ、一定の評価はできる。</p>
■H29年度利用者数	22,181人											
■H30年度利用者数	19,142人											
■R01年度利用者数	16,534人											
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>①わいわい村のコンセプト（昔生活体験、自然・環境学習体験、田畑の農作業体験）に基づき、あらゆる年齢、人数に対応したプログラムを設定 ②安全管理を徹底した運営とサポート ③畑の収穫野菜を使った簡単メニューレシピの提供による自炊食事の充実</p>	<p>①今年度利用をした小学校宿泊利用では循環型環境学習の提案をし、2泊3日の生活をした。①展示棟の茅葺屋根の仕組み(萱=水・湿気に強い、藁=温度調節、葦=火・熱に強い) ②田畑の農作業管理(土壌改良、肥料まき、耕運、畝づくり、植え付け等=わいわい村では、薪を燃やした後の灰、炭を畑にまき、土壌改良をしている) ③水道水(川の水を利用。風呂や炊事で使った水は、トイレの流しとして利用) ④薪での食事作りとお風呂沸かし=二酸化炭素を排出して、野山の木々が吸収→木々が酸素を排出して人間や動物が生活している等々を各現場で学習をしている。家族利用も同様の説明を時間短縮で行っている。</p> <p>②日頃よりわいわい村職員には、「安全管理、危機管理、衛生管理、施設管理、プログラム管理」を念頭に入れた指導を指示している。</p> <p>③自炊生活という事で食事作りに時間が取られてしまうため、収穫をした白菜、なすび、キュウリ等で簡単にできるお漬物を口頭で紹介をしている。レシピの提供には至っていない。</p>	<p>A</p>	<p>①わいわい村のコンセプトを季節や天候、作物の生育状況等を考慮しつつ、利用者のニーズにあった形に変更し、プログラムを提供している。</p> <p>②スタッフが24時間常駐しており、定期的に見回り点検を行い日報で情報共有している。また、豪雨や台風時は宿泊客や予約客に迅速な対応を取るとともに、府に随時報告を行なっている。また、毎年「府民の森事故対応マニュアル」に基づき、災害訓練等を実施している。(R2年度はR3.1.29に実施予定)</p> <p>③宿泊者全員を対象とするには収穫できる野菜の量が少ないので、まずは希望者だけにレシピを提案することも検討している。</p>	<p>A</p>							
<p>(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度</p>	<p>①安全な施設を利用者に提供 簡易上水道設備、高度処理浄化槽、高圧受電設備、防火管理、衛生管理等についての点検、維持管理 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の実施 ③防犯対策：不審者監視の強化、午前9時開門・午後5時閉門、定時の施設内巡回、職員の24時間常駐による速やかな対応</p> <p>①施設維持管理は適切に実施されているか</p>	<p>①上水道(1回/月)、中水道(1回/週)、受電設備(1回/2カ月)の委託業者による点検を契約している。異常が発生した場合は、随時業者による復旧作業を行っている。特に上水道については、これまで同様に業者が到着するまでは、スタッフが機械を操作できる範囲で復旧作業をしている。8月20日頃から水道水の異常(基準値以上の塩素酸濃度の検出)が発生し、利用者に飲料水の提供ができない事態となったが、9月10日に回復をして通常運営となった。塩素酸濃度は業者による年2回の測定を行っているが、今後しばらくは、毎月の測定として様子を見ることにしている。昨年度より、上水道と中水道の点検担当者が同一人物となり、中水道の週1回の点検時にも上水道機械室の点検をほぼ毎回していただくように依頼をしている。機械室周辺の除草は、随時行っている。</p> <p>厨房内の安全衛生管理では、これまで通り4種類(業務作業時防災チェック、個人衛生チェック、作業チェック、温度湿度チェック)の管理を定時(9時、17時)に記録し、朝夕の2回水質検査(残留塩素)を実施している。また厨房内への入室の際、薬用せっけんによる手洗い、アルコール消毒の徹底。宿泊棟では、寝具を5月下旬、12月上旬に天日干しを行い、7月中旬に宿泊棟内のダニほかの害虫駆除、業者による寝具乾燥を行い、衛生管理に努めている。火を取り扱う防火については、チェックイン時のオリエンテーションで説明をしている。12月初旬に宿泊棟、厨房、トイレ、ロビー等の埃、煤払い、全宿泊棟の天井のカビ取り作業の大掃除を実施した。</p> <p>②利用者には、<u>感染予防対策として利用4日前からの検温、利用同意書(3密回避、手洗い、うがい、消毒等の項目)の書類を提出していただいている。</u>宿泊棟内には、感染予防の案内と利用説明時に再度</p>	<p>A</p>	<p>①浄水設備の定期点検は実施している。これまで、台風等の影響により、飲料や料理に適さない状態の場合は、利用者に状況を丁寧に説明し、ペットボトル水を配布して宿泊料の割引等を行っている。利用者からの苦情はほとんどない。その他施設点検は確実に実施している。</p> <p>② <u>新型コロナウイルス感染症の感染予防対策について、施設に対応したガイドラインの作成や施設の使い方を工夫する等により、適切に実施をしている。</u></p> <p>③24時間職員が駐在して防犯対策を適切に実施しており、点検内容は日々の日報に記録して共有している。</p>	<p>S</p>	<p>・新型コロナウイルス感染予防対策について、継続して実施されたい。</p>						



			<p>確認をしている。宿泊棟、ロビー、フロントカウンター、トイレ等不特定多数者が接触をする箇所の消毒を実施している。大阪府感染防止ステッカーの登録。</p> <p>③定時の巡回(7時、17時、22時)により、防犯安全確認として各棟の錠他、施設点検を行っている。</p> <p>※その他          厨房の衛生管理については6月、宿泊棟施設他寝具管理等については5月に保健所の立入検査があり、よい評価を受けている。上水道では、年2回(8月、2021年1月)に保健所の立入検査を受け、わいわい村職員、大阪府職員、メンテナンス業者立会いで現状の報告をしている。</p> <p>施設の維持管理では、垣根等が朽ちており、危険な箇所については、随時近隣の竹林地主にお願いをして竹をいただき、今年度も補修をしている。</p>				
	②景観保全、美化清掃活動は適切に実施されているか	<p>①景観保全          ゴミ箱設置なし、構築物の彩色配慮、除草薬剤等の不使用</p> <p>②室内美化清掃          定期的な清掃、管理にいて地元人材の活用やボランティア等と協力関係を強化</p> <p>③農地管理          地元農事法人や周辺地域の協力による田畑管理、農薬を削減した米栽培等</p>	<p>① ゴミ箱を設置せず、ゴミの削減、持ち帰りを推進している。利用者には、オリエンテーション時にその説明をしている。貼り紙については、園地内や建物(宿泊棟)には、掲示をなくし、里山の景観を維持している。しかし、今年度は、宿泊棟内には、「新型コロナウイルス感染防止」の貼り紙をしている。園地内の除草は、草刈機で行っているが、足元が不安定な箇所は一部除草剤を使用した。川の土手については、足元が不安定で危険はあるが、河川の保護の為除草剤を使用せず、草刈機で実施している。お米は、苗の定植後1週間以内に除草剤、8月には「いもち病」という稲の病気を防ぐ農薬を散布している。(大阪府エコ農産物栽培の申請内)</p> <p>② 清掃・厨房管理作業は、これまで同様に地元の方の協力をいただいている。</p> <p>③ 農地管理については、スタッフと地元の方や近隣の農機具屋さんのご協力で行っている。この地域で運営をして生きていく為のよい人間関係ができています。米栽培の農薬については、大阪府に事前に申請をし、認可を受けている「大阪府エコ農産物栽培」の範囲内で散布している。</p>	A	<p>① 環境教育の拠点施設として循環型の生活を実践している。宿泊者がゴミを放置するケースもしばしば見受けられるようだが、チェックイン時に説明し根気強く理解を求めている。</p> <p>② 子どもからお年寄りまで利用する宿泊施設として清潔な状態で利用者を迎えられるよう、地元の人材をパートタイマーとして雇用し、掃除や厨房作業をお願いしている。</p> <p>③ 近隣の農家の方が米の収穫期等に手伝いに来られ、活動が地元で根付いている。また、環境に配慮し、減農薬で農作物を育てている。</p>	A	
I 提案の履行状況に関する項目	(6) 自主事業についての具体的手法及び期待される効果	<p>①青少年のキャンプ活動          イングリッシュキャンプや、心に障がいを持った子ども達が集団生活できるプログラムの実施</p> <p>②高齢者の生きがいづくり          高齢者とわいわい村職員、学生ボランティアが共に活動し豊かな経験を若い世代に伝える場を展開</p> <p>③里山まつりの実施</p>	<p>① イングリッシュキャンプは今年度も計画が出来なかった。また今年度の子どもキャンプについても、新型コロナウイルスの3密の関係で実施はしていない。心に障がいがあるプログラムでは、2泊3日の予定で大阪 YMCA 表現コミュニケーションクラス生徒と共同でプログラム実施をする予定であったが、コロナの関係でキャンセルとなった。しかし11月に日帰りの遠足利用があり共同プログラムを行った。近隣との関係では、大阪府立泉南高等支援学校の社会生活体験の実習を11月に5日間の日程で受け入れをした。他の期間で実習計画があれば、受け入れをさせていただくことを今年度も伝えている。</p> <p>② 大阪府 OB グループ、YMCA ボランティアグループの方の協力を得て施設管理の一部を協力していただいている。学生ボランティアとの共同活動については、わいわい村での活動内容(高齢者ボランティアは、畑作業の活動。学生ボランティアは、子供の成長を育む活動)が異なるため、展開できていない。しかし今年度は、環境省の助成を受け、畑っこキャンプ(農作業体験)を実施し、高齢者と学生ボランティア、参加者(家族)との多世代の畑活動ができた。</p> <p>③ 今年度は、新型コロナウイルスの感染で春まつりと里山まつりは実施できなかった。しかし、泉南市商工会主催の「泉南市ロングパーク」での出店(野菜販売、わいわい村施設の四季の写真掲示等)に参加をした。2021年2月には、同商工会開催のイベントにも参加をし、紀泉わいわい村の認知度を上げるプログラムを計画している。</p>	B	<p>① 新型コロナ感染症の影響により、現状での実施は、難しいものがあるが、里山体験だけでなく、日本語学習と組み合わせる等の工夫を検討してイングリッシュキャンプを実現されたい。  <u>今年も、泉南高等支援学校より生徒の受け入れを実施しており、引き続き幅広く他団体等とも連携されたい。</u></p> <p>② 多くの人が関わるイベントや収穫等を通じて、日ごろ接点のない方々がわいわい村での共同作業により交流が生まれるような仕掛けが出来ている。</p> <p>③ わいわい村での毎年の恒例行事となっている里山まつりは多くの方に参加いただいているので、来年度に期待したい。<u>新たな取り組みへの努力がされている。</u></p>	A	
	(7) 府施策との整合	①行政の福祉化、就職困難者の雇用・就労	① わいわい村への自家用車での通勤や清掃管理を含めキャンプ場での体験プログラムの現場指導等でわいわい村に適した人材が今年度も確保できていない。 ※前項目に記述した近隣の大阪府立泉南支援高校の職場体験実習を11月に受け入れをした。これ以外に他の日程でも実習計画があれば受け入れの協力をさせていただくことを担当教員に伝えている。	C	① 施設が駅から遠いため自家用車での通勤が必須である等、難しい面があり、やむを得ないと思われる。イベント時の協力はできている。なお、これまで、 <u>障害者自立支援センター ほっぷ</u> を通じた求人活動を行っており、 <u>大阪府立泉南支援高校より、職業体験として生徒の受け入れも行っている。</u>	B	・就労が難しい場所ではあるが、雇用に向けた努力は継続されたい。

			る。				
	②府事業、その他公益事業への協力	①府事業への協力状況	<p>① 大阪府商工労働部雇用推進室より依頼があり、今年度も7月に2日間(延べ30名)あいらん地区の労働者に草刈り等の労働職場を提供した。</p> <p>泉南市人権課、商工観光課、総合政策課(ふるさと納税)、観光協会他泉南市商工会イベントへの参加等地域活性等で相互協力ができている。特に泉南市観光協会のフォトコンテスト、KIX 泉州ツーリズム他主催イベントでわいわい村の宿泊招待券や日帰り体験利用券を提供している。泉南市商工会主催のイベントや会議にも積極的に参加をしている。2月に実施した同商工会主催プログラムにわいわい村も登録し、登録をした出店の中では、一番多くの参加者を集め、商工会他出展企業から高評価を得ることができ、商工会の会議で、プレゼンテーションの依頼があった。大阪府関係では、ロビー他にポスター掲示やチラシ設置の協力をさせていただいている。今年度は、「コロナウイルス感染防止ステッカー」の登録もさせていただいている。わいわい村の広報を兼ねて、2020年年初の府政だよりに宿泊招待券を提供させていただいた。</p> <p>※ 泉南市、阪南市、田尻町の教育委員会他部署との関係ができている。今年度は、泉佐野市教育委員会との関係も出来つつあり、来年度に繋げられた。今後は熊取町との関係を強化し顧客獲得に努める。</p> <p>毎年2月中旬から3月中旬までの1ヵ月間を日本YMCA全体で「いじめ・人権」を考える「ピンクシャツデー月間」を設けている。今年度も、泉南市人権課、地元小学校(7校)に「いじめ撲滅」の趣旨を説明し、市民、児童に協力を得る月間としポスターの掲示をしていく。</p>	A	① 府の減免適用範囲の拡大、府広報への協力等、府の事業に適切に協力している。また、あいらん地区の労働者への労働職場の提供や、泉南市商工会が実施するイベント等への協力等、その他多くの団体へ協力している。	A	
IIよりなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	①利用者の満足度調査・アンケート等の結果のフィードバック状況	<p>① アンケートでエアコンの要望があるが、今年度も昨年度から設置をしている扇風機で対応している。また、希望により、扇風機の手入れの案内をしている。しかし、冬期はこれまでと同様に囲炉裏の良さを味わってもらうために、暖房器具の持ち込みはお断りしている。</p> <p>施設の補修や傷みについての書き込みでは、障子の破れについては、その都度の張替えを行っている。施設の老朽化による畳、網戸、ふすま、戸の滑車等の傷みが目立つようになってきている。優先順位をつけ、修理、取り換えを考えていきたい。</p> <p>食材や飲料の持ち込みについては、従来通り食中毒や給食費としての収入の減少になってしまうため、食材提供を基本とし、持ち込みは禁止としている。</p> <p>デイサービスセンターの利用やビジターで来られた障がい者施設の送迎車を園内まで乗り入れができる対応をしている。</p> <p>アンケート結果では、「職員の対応が良い」という回答も多く、今後のサービスに繋がっている。</p>	B	① 過去のアンケートでも電化製品の使用や持込み食料についての意見が寄せられている。施設の趣旨に照らして支障のない範囲で、利用者の状況に応じ柔軟に対応している。利用者からの要望を受け、各棟に扇風機を設置するなど、適切に運営に反映している。毎年度のアンケートについては、確実に実施をされたい。	A	・アンケートについては、引き続き確実に実施しながら、その結果を分析し、対応できること、できないことを振り分けた上で、できることへの対応をしっかりと実施されたい。
	(2)その他創意工夫	<p>① I-4以外のサービス向上につながる取組み、創意工夫の実施状況</p> <p>②府民、ボランティア、NPO等の団体が事業企画などに参加・参画できる機会の確保</p> <p>③新規の団体等との協働</p>	<p>① チェックイン時間は15時となっているが、清掃作業を素早く行うことにより、入室を早めてお部屋に入らせていただいている。また収穫季節にもよるが、畑で採れた野菜を食事の一部材料として提供している。日帰り体験利用では、家族、団体を問わず、食事作りなど活動を共にしている。場所貸しの施設ではなく、共に活動をする施設として運営をしている。</p> <p>② 今年度は、新型コロナウイルスの影響で祭りイベント(春・冬まつり)の企画が中止となり、ボランティアの参画機会がなかったが、大阪府立支援高校の現場体験実習の受け入れをして生徒と共同作業を行った。また実習生の受け入れとして、手塚山大学より3名を受け入れ、ファミリープログラムの指導にあたった。12月には、和歌山大学より5名が実習として観光関係のゼミ授業をわいわい村職員と実施した。</p> <p>③ 今年度はイベントの中止で各団体との協働はできていない。しかし、泉南市商工会とは11月に泉南市ロングパーク(9月オープン)の泉南</p>	A	<p>① 利用者のニーズに応じて臨機応変に対応している。障がいがある方の利用料金の減免について、詳しい情報をHPに記載しており、サービス向上に繋がっている。</p> <p>② 感染症の影響から、イベント等の開催機会が減っているが、少数ながらも実習等の受け入れを図っており、次につながるものとなっている。</p> <p>③ 新たな団体との連携体制が図られている。</p>	A	



			りんくう公園)でのイベント出店や2021年2月のイベントに共同参加を計画して準備を進めている。				
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目 適正な管理業務の遂行を図ることができるとの能力及び財政基盤に関する項目</p>	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>①当初見込んでいた収入は得られているか</p> <p>②事業計画や前年度実績等と当年度実績とを比較、分析した結果はどうか</p> <p>③自主事業の事例を調査し、取組可能な事例について導入を試みているかどうか</p> <p>④経費は当初見込んだ範囲内で収まっているか</p> <p>⑤当初提案時の支出計画書や事業計画等と実績とを比較、分析した結果はどうか</p>	<p>① 新型コロナウイルスの影響により、団体関係は全てキャンセルとなった。家族利用では、非常事態宣言による休館の4・5月は予約が取れなかった。また学校の夏休みの短縮により7・8月の利用がかなり減少し、当初予算通りの収入には至っていない。土曜日の予約や日帰り利用については、これまで通りの運営に戻ってきた。</p> <p>② コロナウイルスによるキャンセルはあったが、家族や保育園の予約件数としては前年度と変化はなかった。しかし、中学校の遠足は、今年は3校の予約で、その年により変化はあるが、減少をしている。</p> <p>③ 8月の子供キャンプをコロナの関係で中止し、代替えとして感染対策を十分に考え3日間のデイスクール(10時～15時)を実施した。13名の参加者であったが、今後繋がるプログラムとなった。ファミリー自然学校では、3回シリーズを年間3回の計画であったが、コロナウイルスの事もあり、参加がしやすいように3回シリーズではなく、毎回の申込みで切り替えた。ファミリープログラムは、固定家族が多いが、申し込みを変更したことにより、初めて参加をしたいという方の問合せもあった。</p> <p>④ 休館や利用が減少したことにより、給食費や物販費の支出が減少している。またパートタイマーの出勤日数も調整しているため、講師給も削減している。全体的に計画範囲内で収まっている。</p> <p>⑤ 水道の機械関係の委託費や光熱費は計画通りの支出で収まっている。しかし、施設の老朽化により、補修箇所が増え、今後修繕費の支出が大きくなる可能性がある。パートタイマーの件数については、閑散期の1・2月を休職として支出を減少させている。収入については、コロナウイルスの影響で団体は全てキャンセルとなったが、インターネット予約の件数(11月現在133組)が増え、随時新たな提案で宿泊や日帰り利用の販売をして、平日は若干ではあるが、土曜日では、予約が多くなっている。</p>	B	<p>① 新型コロナウイルスの影響から、12月末時点で、年間計画の利用料収入の32%。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響から、4月～12月末時点の利用料収入合計は前年度と比較して約52%減。</p> <p>③ 好評であった取組みを拡大実施するとともに、既存イベントの繰返しではなく新たな試みとして、日帰りプログラム等工夫がうかがえる。</p> <p>④ ⑤ 今期は、新型コロナウイルスの影響から、一時受入れを休止する、また団体の受入れが難しくなった等のため、一部府より補填を行う。</p> <p>※R2年度委託料 21,695千円</p>	B	
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	<p>①職員体制・配置は十分か</p> <p>②安全面についての職員の意識・スキル向上策の検討状況</p>	<p>① 利用者の安全、安心、衛生を確保するための体制は整えている。今年は、コロナの影響で利用者数は減少しているが、大阪YMCA ウェルネス事業部から1名応援職員を配属している。</p> <p>② 大阪 YMCA 企画の人権研修、安全研究会に業務として出席をしている。またウェルネス事業部の研修にも日程を調整して参加をしている。わいわい村職員には常に「安全管理、危機管理、衛生管理、プログラム管理、施設管理」の意識を持ち、利用者の立場に立って安全を確保する業務につくことを指示している。今年は、コロナウイルス感染防止のマニュアルを作成し対策に努めている。</p>	A	<p>① 人員を縮減し、繁忙期は短期パートタイマーや応援人員により柔軟に対応している。</p> <p>② 職員に対して十分な研修体制をとっている。</p>	A	
	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	<p>①指定管理業務を受託するうえで、法人の経営状況に問題はないか</p>	<p>①全国のYMCAにおいて、様々な事業(ウェルネス、幼稚園・保育園、英語幼稚園、中高生クラス、特別支援教育、ランゲージセンター、専門学校、インターナショナルスクール、高齢者等々)を通じて全国・各国のYMCAと連携をもった取り組みを今年度も展開している。しかし今年度は、コロナウイルスの影響により、休館や通常プログラム、主催事業他イベントの中止等で収入の減少が大きい。感染対策をして徐々に通常運営に戻す取り組みをしているが、収支のバランスが取れていない。新型コロナウイルスの今後の影響にもよるが、今年度は厳しい状況である。</p>	B	<p>① 経常収益に減が見られるが、法人本体の経営状況から現状では、指定管理業務の受託に問題はない。</p>	B	

年度評価 : A